

企業の配置、企業の経営

①もっともよい企業だけを残すべきである

三七九 すべての州および県経済会議への電報

すべての部と工業部門のために最高国民経済会議議長へ
写しを中央統計局へ

経済建設のもっとも重要な課題の一つ、こんにちもっとも急を要する課題は、国家の配給を受けている施設と企業の数を減らすことである。手持ちの資源を厳重に点検したうえで、最少限の、もっとも大規模で、設備と装置のもっともよい企業、工場、鉱山だけを国家配給のもとに残すべきである。至急もう一度そのような点検をおこない、もう一度国家配給の企業数を減らすよう命じる。至急国家配給に残される企業のリストを作成し、本年十月一日までに労働国防会議へ送付すること。

経済会議、とくに県統計局の全員の直接の責任において実行すること。企業数の削減に綿密さを欠くものは裁判に付する。

労働国防会議議長 レーニン

1921年9月12日

第45巻 P352 『すべての州および県経済会議への電報』

1933年に『レーニンスキー・ズボールニク』第23巻にはじめて発表
レーニンの署名のあるタイプしたテキストと照合した手稿によって印刷

②なぜ国営商業は負かされるのか

七三一 イ・ヴェ・スターリンとエム・イ・
フルムキンへの手紙と秘書への依頼

同志スターリンと同志フルムキン！ 外国貿易の独占を弱めることについて話し合ったり、相談したり、委員会をつくったり等々することを正式に禁止する必要があると、考える。

国営商業はいつもかならず負かされるだろうというフルムキンの意見には賛成しない。全世界で百貨店がすべてを打ち負かしている。どういう点で百貨店が国営商業よりすぐれているのか？

売上げと利潤にたいして勤務員に報賞を支払うやり方に、系統的に移るべきである。そうしなければ外国貿易人民委員部（とわれわれすべて）は失敗してしまう。この点をフルムキンは考えていない。ここに彼の手落ちがある。

五月十五日 レーニン

スターリンとフルムキンにこっそり送って、ひとこと意見をつけて私に返してくれるよう頼むこと。なるべく早く（二三日）返してくるよう監視すること*。

五月十五日 レーニン

事項訳注 P917

* 1922年5月15日、レーニンは、外国貿易の独占の問題をめぐる党内の意見の相違が外国資本家との交渉にわるい影響をおよぼしていることを立証する資料を、ドイツ駐在ロシア共和国全権代表エヌ・エヌ・クレスチンスキーから受け取った。

外国貿易人民委員代理エム・イ・フルムキンは、1922年5月10日付の手紙で、確実な独占にもとづく大量取引を国家（外国貿易人民委員部）の手にのこしておくのは4-5の商品にかぎり、その他の物資はみな、国家が資本を支出しはしないが、利潤の一部を国家におさめる合弁会社の手で自由に輸入させるよう提案した。フルムキンはその提案理由として、国営貿易の欠損や、それが自由競争のもとでは私的貿易によって打ちくたせられることをあげている。

レーニンの手紙のテキストの下部には、スターリンの1922年5月17日付の返事があり、彼は「いまの段階では」外国貿易の独占を緩和する方向への措置を正式に禁止することに反対はしないが、「緩和は避けられなくなろうとしている」と書いている。

5月22日、党政治局は、レーニンから提出された外国貿易の独占についての決定草案（本全集、第四二巻、585ページ）を採択した。

第45巻 P713-714 『スターリンとフルムキンへの手紙と秘書への依頼』

1922年5月15日に執筆

1959年に『レーニンスキー・ズボールニク』第三六巻にはじめて発表

手稿によって印刷

コメント

レーニンは外国貿易の独占の重要性と独占の維持のための国営商業の経営方法の改革について述べている。スターリンはそれについて理解していない。